

2009年度

《学生による授業評価アンケート》結果報告書

相愛大学 FD 委員会

目 次

1. 学生による授業評価アンケート結果について（総評）	1
2. 結果の分析	
基礎共通	9
音楽学部	11
人文学部	13
人間発達学部	16
3. 資料	17

学生による授業評価アンケート結果について（総評）

本学においては1995年度より自主的に学生による授業評価アンケートを作成し、およそ隔年ごとに実施してきました。しかしアンケート項目が不十分であり、活用する方法にも改善が必要であるということで、2008年に発足した相愛大学FD委員会の主任務のひとつとしてアンケート項目と活用方法の見直しに取り組みました。それを受けて2009年前期に新たな項目による授業アンケートを行い、結果を（4名以下のクラスを除く）担当者に返却するとともに、結果に対するコメントを作成していただきました。並行してFD委員会ではアンケート結果の分析を行いました。

先生方にはアンケートの実施およびリフレクション・ペーパーの作成にご理解とご協力をたまわり、ありがとうございました。また学生諸君にはアンケートに協力いただきありがとうございました。以下のページに委員会としての分析結果をお示しするとともに、先生方のコメント付きのアンケート結果を資料として掲載した報告集をこの度刊行することになりましたので、ご高覧願います。このアンケート活動はあくまでも授業改善の支援が目的であり、組織的点検によって本学の教育全体が向上することを目指すものです。そのような趣旨をご理解いただき。今後もよろしくご協力をお願いします。

アンケート結果の分析に際しては、以下の諸点を考慮に入れて取り組みました。

- ①自由記述なども参考にしながら科目としてどのような評価が出ているかを把握する。
- ②全体の中で学部・学科の特徴がどのように読み取れるか。
- ③問1～15（12）の評価で特徴的なことは何か。
- ④評価の高低と科目の区分（必修、選択、講義、演習、実習など）、受講者数（クラスサイズ）の相関性はどうか。

これらの視点から各学部・セクションのFD委員にコメント原案を作成してもらい、委員会において討議・修正しました。

なお、その分析の際の単位として「グループ平均」を用いましたが、これは以下のように区分しています。音楽の個人レッスンは専攻別、それ以外の音楽科目は学部単位です。人文学部、人間発達学部は学科を単位としています。共通教育科目は一括りにしています。学部、学科によって人数差があり、授業の性格や形態の違いなどもありますので、単純に比較することには問題もあると思われます。むしろ経年変化の中でそれぞれが今後どのように推移していくか追跡して行くことが大事かと思われます。

なお、当初の方針としては年2回、前期・後期にアンケートを実施し、結果のとりまとめも早期におこなう予定でしたが、結果の発表より分析が重要であるという考えから委員会での検討を慎重に行いました。その結果、後期のアンケートを取りやめ、また報告集の刊行が大幅に遅くなったことをお詫びいたします。

まだ緒についたばかりの本学の **FD** 活動としての授業評価について、今後ともよろしくご理解とご協力をお願いするものです。

2010 年 3 月 20 日

相愛大学 FD 委員会	委員長	山	下	昇
		川	中	美津子
		斎	藤	建 寛
		佐々木		豊
		中	村	富 予
		江	草	浩 幸
		吉	野	和 夫
		左	官	雅 範
		久須美	裕	治

授業についてのアンケート

相愛大学は、授業の改善のために授業評価アンケートを実施します。アンケートは授業の改善のためだけに利用されます。率直な回答をお願いします。

学年と学部・学科は○で囲んでください。学科(音楽・人文・人間発達)、科目名、教員名は記入してください。

学年 1年 2年 3年 4年 その他

学部 1. 音楽 2. 人文 3. 人間発達 4. その他

学科 1. 音楽 2. 日文 3. 英米 4. 心理 5. 社デ(現社) 6. 子ども 7. 栄養

科目名

教員名

質問 1 あなたの出席状況について、あてはまる番号を○で囲んでください。

4 毎回出席 3 ほとんど出席 2 半分程度出席 1 たまに出席

質問2から質問15(もしあれば質問17、18についても)まで、当てはまる選択肢ひとつを選んで○で囲んでください。
質問9と質問10は、授業の性格によって当てはまらないことがあります。その場合、記入する必要はありません。

そ う 思 う	や や そ う 思 う	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い
------------------	----------------------------	---	----------------------------

質問	2	私はこの授業に熱心に取り組んでいる。
----	---	--------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 3 私は講義要綱(シラバス)をきちんと読んだ。

4	3	2	1
---	---	---	---

質問	4	私はこの授業の目的を理解している。
----	---	-------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問	5	担当教員は熱意を持って授業している。
----	---	--------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問	6	担当教員の話し方はわかりやすい。
----	---	------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 7	担当教員は授業時間を守っている。
------	------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問	8	担当教員は授業に参加しやすい環境をつくっている。
----	---	--------------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問	9	板書は分かりやすい。
----	---	------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 10 プリントや視聴覚教材が効果的に用いられている。

4	3	2	1
---	---	---	---

質問	11	授業は講義要綱(シラバス)に従って進行している。
----	----	--------------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 12	授業の内容は興味深い。
-------	-------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 13 授業の内容は理解しやすい。

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 14	成績の評価基準が明瞭に示されている。
-------	--------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 15	この授業に満足している。
-------	--------------

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 16 この授業について意見・要望・希望・感想があれば、自由に書いてください。

質問 17 この授業だけの質問です。担当教員が板書などで示します。

4	3	2	1
---	---	---	---

質問 18	この授業だけの質問です。担当教員が板書などで示します。
-------	-----------------------------

4	3	2	1
---	---	---	---

ご協力ありがとうございました

授業についてのアンケート（レッスン）

相愛大学は、授業の改善のために授業評価アンケートを実施します。アンケートは授業の改善のためだけに利用されます。率直な回答をお願いします。

学年と専攻は○で囲んでください。科目名・教員名は記入してください。

学年 1年 2年 3年 4年 その他

専攻 1. 作曲 2. 音楽学 3. 音楽療法 4. 声楽 5. ピアノ 6. 創作演奏

7. オルガン 8. 木管楽器 9. 金管楽器 10. 弦楽器 11. 打楽器 12. 古楽器

科目名

教員名

質問 1 あなたの出席状況について、あてはまる番号を○で囲んでください。

4 毎回出席 3 ほとんど出席 2 半分程度出席 1 たまに出席

質問2から質問12まで、当てはまる選択肢ひとつを選んで○で囲んでください。

そ
う
思
う

や
や
そ
う
思
う

あ
ま
り
そ
う
思
わ
な
い

そ
う
思
わ
な
い

質問 2	私は遅刻をせずに出席している。	4	3	2	1
質問 3	私はレッスンに熱心に取り組んでいる。	4	3	2	1
質問 4	私はレッスンの準備（譜読み・練習等）を十分にしている。	4	3	2	1
質問 5	レッスンの進行は技術や理解度に合わせて適切である。	4	3	2	1
質問 6	レッスンの教材は自分にとって適切である。	4	3	2	1
質問 7	このレッスンで意欲が向上している。	4	3	2	1
質問 8	担当教員とのあいだに信頼関係ができています。	4	3	2	1
質問 9	担当教員の話し方や態度は適切である。	4	3	2	1
質問 10	担当教員の熱意や真剣さが感じられる。	4	3	2	1
質問 11	担当教員は授業回数や時間をきちんと守っている。	4	3	2	1
質問 12	担当教員は、休講に対する補講を適切に行っている。	4	3	2	1

質問 13 このレッスンについて意見・要望・希望・感想があれば、自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました

授業アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎共通	音楽	日本文化	英米文化	人間心理	社会デザイン	発達栄養	子ども	共通(資格関係)	留学生
問1	3.42	3.51	3.39	3.42	3.36	3.30	3.65	3.55	3.56	3.83
問2	3.27	3.53	3.38	3.58	3.24	3.37	3.30	3.34	3.21	3.98
問3	2.65	2.91	3.22	3.32	2.80	2.80	2.45	2.46	2.73	3.92
問4	3.17	3.52	3.41	3.59	3.17	3.27	3.13	3.23	3.28	3.98
問5	3.62	3.77	3.71	3.77	3.57	3.56	3.45	3.56	3.47	3.99
問6	3.40	3.62	3.49	3.65	3.29	3.46	3.13	3.28	3.07	3.98
問7	3.62	3.76	3.63	3.74	3.59	3.53	3.47	3.49	3.43	3.99
問8	3.43	3.65	3.51	3.69	3.38	3.49	3.27	3.32	3.22	3.98
問9	3.16	3.45	3.23	3.54	3.07	3.24	2.86	3.02	2.90	3.98
問10	3.36	3.65	3.39	3.57	3.38	3.34	3.16	3.27	3.34	3.98
問11	3.22	3.48	3.49	3.58	3.27	3.26	3.05	3.08	3.20	3.98
問12	3.28	3.57	3.45	3.59	3.36	3.44	3.16	3.31	3.18	3.95
問13	3.28	3.52	3.37	3.58	3.18	3.33	2.99	3.23	3.05	3.96
問14	3.25	3.42	3.42	3.57	3.25	3.30	3.09	3.18	3.24	3.97
問15	3.31	3.55	3.46	3.61	3.28	3.39	3.13	3.21	3.10	3.98
平均値	3.30	3.53	3.44	3.59	3.28	3.34	3.15	3.24	3.20	3.96

授業アンケート調査結果 グループ平均一覧

	学科専門科目	作曲専攻	声楽専攻	ピアノ専攻	創作演奏	オルガン	管弦打	古楽器
問1	3.56	3.72	3.81	3.72	3.63	3.40	3.92	3.75
問2	3.75	3.73	3.89	3.93	3.78	3.60	3.90	4.00
問3	3.61	3.93	3.82	3.93	3.78	3.60	3.91	4.00
問4	3.10	3.53	3.34	3.30	3.38	3.00	3.60	3.75
問5	3.79	4.00	3.89	3.96	3.63	3.80	3.92	4.00
問6	3.75	4.00	3.92	3.91	3.75	3.40	3.90	4.00
問7	3.64	3.90	3.84	3.87	3.78	3.80	3.94	3.75
問8	3.63	3.93	3.87	3.76	3.59	3.80	3.82	4.00
問9	3.83	3.97	3.84	3.91	3.75	3.80	3.91	4.00
問10	3.82	4.00	3.95	3.91	3.75	3.80	3.92	4.00
問11	3.80	3.87	3.87	3.87	3.53	3.80	3.73	4.00
問12	3.77	3.93	3.92	3.89	3.56	3.80	3.78	4.00
平均値	3.67	3.88	3.83	3.83	3.66	3.63	3.85	3.94

提出数 4 名以下のクラスおよびレッスンのアンケート結果と自由記述の特徴について

全科目（全クラス）の授業評価実施を目的として、今回は従来の 5 名以下のクラスおよび音楽の個人レッスンも除外しないということで、レッスン用のアンケートも別に用意して実施しました。実施に関してはほとんどの授業（担当者）の理解と協力が得られましたが、結果の返却に関しては、受講学生の不利益を避けるという配慮のもとに、4 名以下のクラス（レッスン）に関して直接返却はしないことにしました。その内訳は次のようでした。

講義・演習科目 638 クラスの内、基準を下回る少人数クラスは 80 ありました。その殆どがゼミ、音楽学部科目でした。音楽レッスンは 516 ありますが、基準以上の受講があつて返却の対象となったのは 2 のみでした。本学が個人レッスンを主体とする音楽学部と、少人数教育を特徴とする大学であるという点がこのような履修状況に確認されます。

少人数クラスあるいは個人レッスンの評価は総じて高く、低い評価はまれでした。ただし皆無というわけではないので、この点については精査が必要と思われます。これら返却されないアンケート結果のなかで、レッスンでは 2 割弱、講義・演習では 4 割程度のものに自由記述があつたので、その特徴的な傾向をあらましとめたものを次にお示しします。ほとんどが授業や授業担当者への肯定的な評価なので、これなら直接担当者に返却しても支障がないかとも思えます。ただし、僅かながら不満を述べているものも見受けられるので、これらの扱いを含めて今後の検討とします。

○授業についてのアンケート（少人数クラス）の自由記述の内容あらまし

回答総数 34 人

1、教員あるいは授業への肯定的評価 26 人

楽しい	8 人
満足	5 人
良い	8 人
面白い	3 人
興味深い	2 人

2、要望あり 3 人

背景も教えてほしい	1 人
バレーをもっとしてほしい	1 人
もう少しゆっくり話してほしい	1 人

3、その他 5人

先生の中学校教諭としての授業を体験したい

後期たのしみ

留学したいので相談にのってください

頑張って取り組みます

この授業は今年で無くなってしまう危機があるけど、無くなったら寂しい

○授業についてのアンケート（レッスン）の自由記述の内容あらまし

回答総数は 93 人

1. 教員あるいはレッスンへの肯定的評価 49人

2. 教員への感謝（「よろしくお願いします」などの記述もここに分類。また、1の内容を含むものもある） 11人

3. 自分についての反省、謝罪あるいは決意表明（1や2の内容を含むものもある）
19人

4. 要望 14人

（1）レッスンの時間あるいは回数の増加を要望 8人

（2）レッスンの決められた時間の厳守を要望 2人（短縮と延長に対する批判が各1人）

（3）その他 4人

「副科管弦打古楽器Ⅲもつくってほしいです」

「もっときつく注意してくださってもかまわないです。ダメなところは徹底的に言ってください」

「もう少し基礎的なことを教えてもらえればうれしい」

「もう少し細かくしてもいいかもしれません」

授業評価アンケート結果の分析（基礎共通、共通〔資格関連〕）

1、評価の特徴

グループ平均をみると、「基礎共通」に対する評価は、「留学生」（平均評定値が飛び抜けて高い）を除く 9 つのグループ中、全項目平均でも、各項目でもほぼ中位（5 位）に位置する。ただ、問 2、3、4 は 7 位であり、受講への意欲・関心の低さがうかがえる。大学や世代に限定されない、日本の大学における普遍的傾向とも考えられるが、専門科目に比べて教養科目が軽視されているということであり、学生の関心を引き起こす工夫が必要であろう。

なお、問 3 の評定値（講義概要をきちんと読んだか）は、グループあるいは科目の別なく一様に低く、学生への履修ガイダンスの工夫が必要であろう。

また、基礎演習に対する評価が担当者によってかなり異なっている。内容を担当者任せにするのではなく、共通化を図る必要があろう。

「共通〔資格関連〕」では、問 1（出席状況）における平均評定値が 2 位、問 4（授業目的の理解度）は 4 位となっている。一方、全項目平均評定値で 8 位、15 項目中の 11 項目においても 7 ～9 位であり、きわめて評価が低い。これらは、授業の性格を反映したものと解釈できる。すなわち、授業目的が明確であり、出席を義務づけられた科目が多いことが前者の結果を生み、授業内容やレポートなどの課題の多さ、授業内容のある種の堅苦しさなどが後者の結果を生んでいると推測できる。問 2（受講への熱意）の評定値が 9 位と低いことも、資格を得るために仕方なく受講しているという学生の様子がうかがえる。

2、科目の区分や受講者数と評価との関連性

講義科目に比べて、実技科目（スポーツ実習、音楽実技など）の評価は明らかに高い。また、外国事情や情報処理演習も概して評価が高い。外国語も、科目や教員によって評価にばらつきがあるものの、全体的には同様である。これらの科目は、内容そのものの楽しさや受講の効果を実感しやすいことが評価を高めていると考えられる。ただし、これらの科目には、回答者が比較的少ないもの（音楽実技はいずれも回答者が 5 名以下）が含まれているので、その点を考慮に入れねばならない。

基礎共通科目には必修科目が少ないので、比較が難しいが、同じ基礎科目でも、選択科目である宗教学 B や人類の未来と比べて、必修である宗教学 A の評定値は低い。ただし、内容の違いがあるので、必修・選択の差であると断言はできない。必修の演習科目である基礎演習については、選択科目の情報処理演習と比較すると、満足度の評定値が低くなる。しかし、この場合も授業内容が明らかに違うので、確かな比較はできない。

全科目についての受講者数と満足度の平均評定値との相関係数は -0.25 （5%水準で統計的に有意な負の相関）であり、受講者数が少ないほど満足度が上がるように見える。

しかし、講義科目、基礎演習、外国語別に計算すると有意な相関が得られない。したがって、全科目に関する相関は、受講者数の効果ではなく、先に述べた講義科目と実技科目の満足度の差を反映したものと考えられる。

授業評価アンケート結果の分析（音楽学部 レッスン）

1、評価の特徴と考察

音楽学部のカリキュラムの根幹である専攻実技レッスンは、学生が最も重視する科目である。専門性がきわめて高く、マンツーマンの形態をとるが、そこには古来の“師弟関係”という性質が内包されており、教員と学生間の人間関係の在り方がそのまま評価となって表れてくると言える。

専攻実技レッスンについては、以下の3点を留意したい。

- 1) 学生の能力の個人差
- 2) 教員と学生間の“相性”
- 3) 学生の学習意欲の差異

以上の要素が絡み合い、よって教員と学生の関わり方は千差万別、百人百様となることを前提として踏まえておきたい。

- ・問 5～12 までの教員側については、全体として 3～4 の高い評価を得ることができた。教員と学生との関わりが概ね良好に保たれていると言える。ひとまず充実した専攻実技レッスンが学生に施されている、また適切な教員の採用人事が行なわれている、と評価される。
- ・問 1～4 までの学生側のレッスンの姿勢については、自ら「至らない」「努力が足りない」といった自戒の念がアンケートに反映されていた。そういった学生の意識をどのように高めていくか、という取り組みが今後の教員の課題となる。
- ・問 8「担当教員とのあいだに信頼関係ができています」については全体の評価は高いものの、同一教員について学生個々の評価が分かれるケースが見受けられ、前述の教員との相性などの要素が表れているように感じられる。このことからアンケートの実施の時期について再考する必要がある。平成 21 年度は 6 月に行なわれたが、新 1 回生については担当教員が以前より師事するなど、旧知の間柄である場合は問題ないが、新年度からの担当である場合は教員に対する印象がまだ希薄であるため、次回からは 10～11 月頃の実施の方がより現実的な評価が得られると考えられる。
- ・問 11「担当教員は授業回数や時間をきちんと守っている」については、音楽学部のレッスンの在り方について重要視するところであるが、一部の教員にかなり低い評価がみられた。音楽学部では学生間の公平性を保つため、年間のレッスン回数を充足させることを重視することから、該当の教員に是正を促す措置を行なった。一方、管弦打古楽器セクションには、関西の主要なプロ・オーケストラに在籍する教員が多く、多忙な状況下

でレッスンが円滑に行なわれているかが懸念されていたが、今回のアンケートではまったく問題のない良好な結果が得られた。

専攻実技レッスンにおける教育の効果を引き出す、あるいは高めていくものは、教員と学生間の良好な人間関係であり、両者が絆を深めつつ有意義なレッスンの場を作り出そうとする姿勢が肝要であるとする。

2、科目の区分や受講者数と評価との関連性

(科目は単一であり、受講形態もマンツーマンですので、

この項目のお答えは割愛させていただきます)

授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

今回の授業アンケート調査は、前回平成 19 年 1 月の調査以来、ほぼ 2 年振りに実施された。前回のものと比べて質問項目を増やし、効果的な授業を行っていく上で取り組むべき課題が明らかになったといえる。以下では、今回の調査結果の主要なポイントを記す。

1. 全体からみる人文学部 4 学科の結果の特徴について

全 10 セクション中、全設問の平均値に関しては、英米文化が 2 位 (3.59)、日本文化が 4 位 (3.44)、社会デザインが 5 位 (3.34)、人間心理が 7 位 (3.28) という順位であった。また総合評価的な意味合いが強い質問 15 (授業の満足度) に関してのみみれば、全 10 セクション中、英米 3.61 (2 位)、日本文化 3.46 (4 位)、社会デザイン 3.39 (5 位)、人間心理 3.28 (7 位) という結果であった。

英米文化が高い平均値を得た背景には、各担当者の授業に対する熱心な取り組みおよび優れた教授法によるものであることはもちろんのこと、全体的にクラスの規模が小さいこと (全 45 科目、回収 408 件、一科目当たり 9.1 人)、また、語学を中心とする学習という目的意識をしっかりと持てる参加型の科目が比較的多いことがあるように思われる。他方、人間心理学科の場合、人文学部の中でも比較的クラスの規模が大きく (全 59 科目、回収 851 件、一科目当たり 14.4 人)、人間学から臨床心理まで多様な科目群が設置され、受講者によって各授業に対する関心の度合いや学習意欲の点でばらつきが見られることが、比較的低い平均値に結びついたものと推測される。

2. 各設問の評価の特徴について

各設問に関してみると、全体的には人文学部の各学科間で数値にきわめて大きなばらつきはみられなかった。但し、個々の設問レベルにおいて学科間で比較的大きな差がみられたのは、質問 3 (シラバスをきちんと読んだか否か) において、英米文化が 3.32 であったのに対し、人間心理、社会デザインが 2.80 であり、0.52 の差となった。また質問 9 (板書の分かりやすさ如何) において、英米文化が 3.54 であったのに対し、人間心理が 3.07 であり、0.47 の差がみられた。

人文学部の 4 学科に関して、各質問の平均値を低い順に並べると、質問 3 (3.03) ⇒ 質問 9 (3.27) ⇒ 質問 4 (3.36) ⇒ 質問 13 (3.37) ⇒ 質問 1 (3.37) ⇒ 質問 2 (3.39) ⇒ 質問 14 (3.39) ⇒ 質問 11 (3.40) ⇒ 質問 10 (3.42) ⇒ 質問 15 (3.44) ⇒ 質問 12 (3.46) ⇒ 質問 6 (3.47) ⇒ 質問 8 (3.51) ⇒ 質問 7 (3.62) ⇒ 質問 5 (3.65) となった。

従って、質問中、平均値で上位 3 分の 1 に入る質問項目は、質問 5 (教員の熱意)、質問 7 (授業時間の遵守)、質問 8 (授業に参加しやすい環境づくり)、質問 6 (教員の話し方)、質問 12 (授業内容の興味深さ) であった。これらの質問項目は、教員の側の授業に対する

取り組み／姿勢に関わるものであり、この結果は、学生は、担当教員に対して概して高い評価を与えていることを示している。

逆に質問中、比較的低い平均値（下位 3 分の 1）となったのは、質問 3（シラバスをきちんと読んだか否か）、質問 9（板書のわかり易さ）、質問 4（授業の目的の理解如何）、質問 13（授業内容の理解のし易さ）、質問 1（出席状況）、質問 2（熱心に取り組んでいるか否か）、質問 14（成績の評価基準の明確さ如何）であった。ここで特徴的なのは、質問 1～4 は、履修学生自身の受講態度に関わる質問群であることであり、学生自身が受講／学習態度に何らかの問題を抱えていることを示す結果となった。

他セクションとの比較において、人文学部の 4 学科の場合、質問 1 の出席状況に関して、基礎共通 (3.42)、音楽(3.51)、人間発達学部(3.56)よりも低い数値(3.37)が出ていることに鑑み、まず履修学生を毎回授業（特に選択科目）にきちんと出席させるための工夫を施すことが必要となつてこよう。また、質問 3 に関しては、基礎共通(2.65)、音楽(2.91)、人間発達学部(2.45)よりは数値が高くなっている(3.03)とはいえ、低い数値であることに変わりはない。履修学生にシラバスをしっかりと読ませて授業の内容／目的を最初の段階で周知徹底させることも今後の課題として浮かび上がったといえる。いずれにせよ、上記の結果を学生自身の問題として静観するのではなく、各担当者の側から履修学生に授業に関心を持たせて積極的に参加させる工夫を今後ともより一層力を入れて行っていくことが必要になつてこよう。

なお若干の授業において、全体的に評価が極めて高いのに対し、プリントや視聴覚教材の効果を問うた質問 10 に関してのみ低い評価の授業がみられた。これは、担当者が配布プリントや視聴覚教材を使わなかったことによるものであると思われる。

3. 評価の高低と科目の区分、受講者数との相関について

必修／選択の区別の点から見れば、概して必修の演習科目（卒業研究、四回生／三回ゼミなど）において、各設問とも数値が高くなる傾向がみられる。これらの科目のほとんどは、回答者がほとんどの場合 10 名以下であり、履修する学生が自ら選んだ少人数の演習形式の授業であることが高い評価に繋がっていると考えられる。他方、選択科目に関しては、授業によって数値のばらつきがみられ、安易な一般化はできない。

また上記と重なる点もあるが、受講者の数の観点からみれば、必修／選択を問わず、受講者が少ない科目で、各設問の数値が高くなる傾向がみられるのに対し、受講者が比較的多い講義課目（特に 30 人を超える科目）ほど、全体的に数値が低くなる傾向がみられる。そこには、受講者数が増えると、たとえ過半数が授業に高い評価を与えても、低い評価を行う者も相対的に増えることが関係していることは明らかである。従って低い評価を行う受講生に、如何にして当該授業に興味関心を抱いてもらい積極的な学習態度を促していくべきかが大きな課題となつてこよう。但し、これも授業によって相当ばらつきがみられ、受講生が 30 人を超えても評価がきわめて高い科目もいくつか見受けられる。このような科

目の担当者が、どのようにして大部分の学生に授業に対する関心を喚起させつつ学習意欲を高める授業を実践しているのかについて学ぶべきであろう。

授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

1. 評価の特徴

人間発達学部は、平成 18 年度に開設され、今年度すべての科目を開講することができた。子ども発達学科は、「保育士資格」「幼稚園教諭 1 種免許状」「小学校教諭 1 種免許状」習得のために幅広い選択科目の中から必要な科目を履修できるように、発達栄養学科は、「管理栄養士国家資格受験資格」のために必要な科目を履修できるようにカリキュラム編成されている。

この 2 学科の授業アンケート結果は、全体的に見てみると他学部と比べて数値がすべてにおいて下回っている。総合評価（問 15）でみると、発達栄養学科が 3.13 で最下位、子ども発達学科も 3.21 と低い。項目別でみると、問 3「私はこの講義要項（シラバス）を読んだ」が特に低く、発達栄養学科では、全項目の中で 1 番低い 2.45 であった。それに関連する問 4「私はこの授業の目的を理解している」、問 11「授業は講義要項（シラバス）に従って進行している」も低い結果となった。

これは、人間発達学部では資格取得の科目が圧倒的に多く、学生が講義要綱を読んで履修登録をするかどうかを決められる科目が非常に少ないことが 1 番の原因と考えられる。リフレクションペーパーをみると、多くの教員は最初の授業時に講義要項の説明や、成績の評価基準についての説明を行っている。学生は、自ら講義要綱を読んだという意識が薄いのかかもしれない。今後、履修指導時に講義要項について説明し、各授業で講義要項を示すとともに、授業の目的や講義の進行について十分に説明をするように学部をあげて心がけていきたい。それによって、関連する問 4、問 11 についても改善できると思われる。

問 12「授業の内容は興味深い」、問 13「授業の内容は理解しやすい」、問 15「この授業に満足している」の項目で点数が下回っている原因としては、資格取得のために履修しているが、学生にとって興味を持ちにくい、または理解できにくい科目も含まれているためと考えられる。子ども発達学科では、総論など概念が中心の授業、発達栄養学科では、化学系、情報処理が必要な授業が低い傾向にあった。苦手意識を少なくし、できるだけ興味をもてるような授業展開を心がけていきたい。

2. 科目の区分や受講者数と評価との関連性

科目の区分でいうと、2 学科ともに、講義よりも演習、実習のほうが総合評価（問 15）を含め多くの項目で有意に点数が高かった。また、専門基礎科目よりも専門基幹、関連科目、研究科目になるにつれ点数は高くなった。受講者数（クラスサイズ）と総合評価（問 15）の関連をみると、子ども発達では、弱い逆相関がみられ受講者数が少ないほど満足度は高かった。発達栄養学科では何の関連もなかった。ほとんどの授業が 3 クラス編成で行われているためと考えられた。

総合評価（問 15）が極端に低い資格関連の科目があった。決められた内容をすべて教えるように努力した結果、授業内容が難しいという評価を得ている教員が多々見うけられた。総合評価の低い科目では、とくに板書の点数が低かった。板書を工夫し、学生の理解力をも考えた授業展開をしていく必要がある。人間発達学部では、できる限り学生の資格取得を支援できる教授法の改善をすすめていきたい。

資 料

相愛大学 FD 委員会規程

(設置)

第1条 相愛大学（以下「本学」という。）に FD 委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 本学教員の教育研究活動の向上と能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、FD に関わる事項を審議する。

(所管)

第3条 委員会は以下の事項を所管する。

- (1) FD の企画・立案に関すること
- (2) FD の実施計画と運営に関すること
- (3) FD 活動に関わる情報の収集と提供
- (4) FD に関する広報活動
- (5) その他 FD に関する事項

(構成)

第4条 委員会は次の者をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 自己点検副委員長
- (3) 教務部長
- (4) 各学部より選出された自己点検委員 1 名
- (5) 共通教育センター選出の自己点検委員 1 名
- (6) 教務事務部長
- (7) 学生事務部長
- (8) その他学長が必要と認めた者若干名

(委員長)

第5条 委員会を統括するために委員長を置く。

- 2 委員長は委員の中から学長が任命する。
- 3 委員長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 4 委員長は必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

(任期)

第6条 前々条の委員の任期は次の通りとする。

(1) 前々条第1号、2号、3号、6号、7号の委員の任期はその在任中とする。

(2) 前々条第4号、5号、8号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(事務の所管)

第7条 委員会の事務は教務課が所管する。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は大学評議会の議を経て学長が行う。

附則 この規程は平成20年7月17日より施行する。

2009 年 6 月 1 日

教員各位

相 愛 大 学

学長 高橋乗宣

学生による授業評価アンケートの実施について

先生方には平素は本学の教育のためにご尽力いただきありがとうございます。本学においては 1995 年度より自主的に授業アンケートを実施してまいりましたが、2008 年度より F D 義務化を受けて、評価項目、評価対象クラス、アンケート実施後の取り扱い等について F D 委員会を中心に見直しを行いました。半年かけて検討したものがようやく纏まり、前期は下記の要領で実施することになりましたので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

1、実施時期：6 月 15 日（月）～20 日（土）

＊この期間に実施できなかったクラスのみ 22（月）～27（土）に追加で実施します。

2、対象クラス：原則として全科目（レッスンを含む。リレー形式の授業は除外する。）

3、アンケートの設問は一般の授業用が 15 項目（レッスン用は 12 項目）、および自由記述で成り立っています。一般授業用については 2 問以内で担当者が独自の設問を設定することも可能です。アンケート配布は科目担当教員が授業終了 10 分前におこない、回収後直ちに封をして教務課に持参していただくか、回収、持参を学生に依頼してください。なお、レッスンのアンケート回収は教務課前に設置する回収箱で行います。

4、前期の授業終了までにアンケートの処理を済ませ、受講者数 5 名以上の科目については、アンケート集計結果を各担当者に返却します。（アンケート提出者 4 名以下の科目は担当者へは返却いたしません。）

5、返却されたアンケート結果に対する意見及び改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを夏休み中に作成してください。（詳細はアンケート返却時にお知らせします。）

6、F D 委員会は、授業評価結果を含むリフレクション・ペーパーを集めて冊子を作るとともに、学内閲覧用にホームページ等に掲載します。

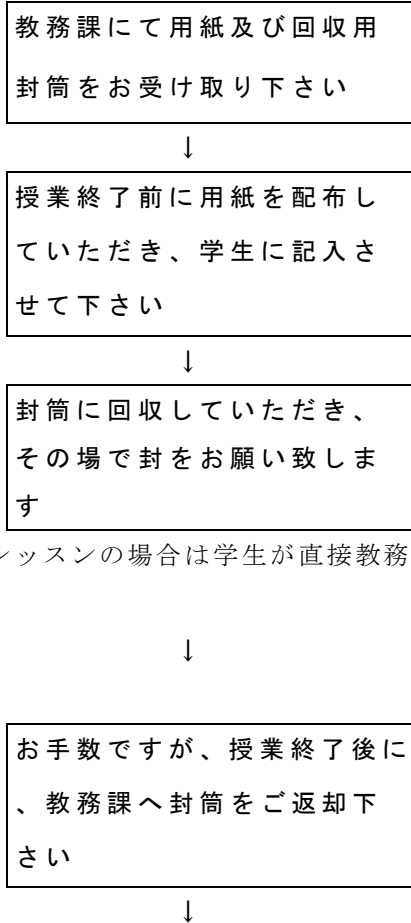
7、F D 委員会は学部・学科別、学年別、科目別、教員別などの集計を行い、その結果を学長、学部長に報告し、教学の改善に活用いたします。

実施手順は下記の要領です。ご出校日に教務課にてアンケート用紙を受け取っていただき、授業時間内で実施をお願い致します。

◎ 実施期間 6月15日（月）～6月20日（土）

◎ 実施手順フローチャート

先生方をお願い致する部分



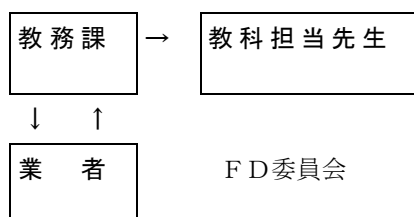
ご注意

過去の事例から、回収後に先生方がアンケート内容をご覧になっているケースが見受けられます。

＊レッスンの場合は学生が直接教務課に提出

アンケートの公正を保つため回収後は速やかに封入下さいますようお願い致します。

以後のデータの流れ



2009年 6 月 1 日

学生の皆さんへ

授業評価アンケート実施についてのお願い

相 愛 大 学
学長 高橋乗宜

この度、本学では、いま開講されている授業について、学生の皆さんが、どのように感じているか、どのような意見を持っているのかについて、アンケートを実施することになりました。

その結果を、今後の授業の内容や方法のなかに取り入れ、教員、学生が一体となって、よりよい大学教育を目指して行きたいと思っています。ご協力をお願いします。

アンケート実施の方法

1. アンケートは、6月15日（月）から6月20日（土）までの1週間（この期間に実施できなかったクラスは22日から27日）に、各授業時間中に実施します。授業時間中に、その授業についてのアンケート記入を行います。

2. アンケートは、すべて無記名方式です。

3. アンケートは、15（レッスン用は12）の設問と、意見自由記述の簡単なものです。またクラスによっては教員が独自に設定した設問が2問以内で問われる場合があります。

4. アンケートは、先生が授業時に用紙を配布されますので、その場で記入して下さい。

5. アンケートはその場で回収され、封入します。（ただしレッスンの場合は学生各自が教務課に提出してください。）封入のまま、学外の専門業者に集計を依頼します。

6. 授業ごとに、アンケート結果を集計し、平均点を担当の先生に報告して、今後の授業の参考にしていただきます。先生方には集計結果についてのリフレクション・ペーパーを作成していただき、授業の具体的な改善方法などを提示してもらい、後日冊子にまとめると共にホームページにも掲載する予定です。

7. アンケート提出者4名以下の授業の結果は担当者へは返却しません。大学FD委員会での検討資料とします。

学生の皆さんのアンケート結果は、誰がどの様に回答したかは、わからないように工夫しておりますので、率直に回答して下さいをお願いします。

2009年7月27日

教員各位

相 愛 大 学
学 長 高 橋 乗 宣
(公 印 省 略)

学 生 に よ る 授 業 評 価 結 果 の ご 返 却
お よ び リ フ レ ク シ ョ ン ペ ー パ ー 作
成 の お 願 い に つ い て

時下、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。本学の自己点検・評価の実施に際しましては、先生には何かと御協力をたまわり有難く感謝申し上げます。

さて、大変遅くなりましたが、先般実施いたしました学生による授業評価アンケートの結果が、処理委託業者より返送されましたので、業者による封入のままご返却申し上げます。これらの結果につきまして、大変お手数ですが、先生のお考えおよび授業改善の方途などに関するリフレクション・ペーパーを下記の要領で作成いただきたく存じます。

なお、ご提出いただいたペーパーは評価結果と共にまとめて冊子として公表し、学内ポータルサイト上にも公開する予定です。今後とも、引き続き自己点検・評価を実施いたし、大学改革の資料といたす所存でございますので、先生には今後とも、何卒のご理解ご協力お願い申し上げます。

○2つの項目に関して、問1について200字以内、問2について400字以内、電子データの形で提出をお願いします。

○提出先：kusumi@soai.ac.jp

○提出締め切り：9月14日（月）